

## モータースポーツ



トヨタはモータースポーツ活動を通じ、クルマの持つ「楽しさ」や「夢」を追求し、その限りない可能性を世界の人びとに伝えていきたいと考えています。現在、「フォーミュラ・ワン世界選手権(F1)」、「IRL インディカー・シリーズ(IRL)」、「NASCAR・クラフツマン・トラック・シリーズ」および「スーパーGT・インターチャレンジ(スーパーGT)」を参戦の柱として活動を推進しています。このほか、トップドライバーの育成、ワンメイクレースの開催、富士スピードウェイの活用など、モータースポーツの基盤を支える活動も継続的に推進しています。

2004年のF1は、目標としていた表彰台獲得は達成できなかったものの、第9戦のアメリカGPでチーム最高位タイ記録となる5位入賞を果たしました。参戦4年目と

なる2005年は、新技術規則の下、空力性能と信頼性を徹底追求した新型F1カー「トヨタTF105」の投入に加え、ドライバーもヤルノ・トゥルーリとラルフ・シューマッハーの新布陣で臨んでいます。その結果、第2戦のマレーシアGPでは、トゥルーリが2位に入り念願の初表彰台を獲得するなど、第10戦時点でトヨタはコンストラクターズポイント4位につけています。

IRLについては、2004年は伝統のインディ500での連覇はならなかったものの、最終戦テキサスにおいて有終の美を飾る優勝を果たしました。2005年は、6チーム10台にトヨタエンジンを供給しています。

また、世界および日本のトップカテゴリーにおいて活躍できるレーシングドライバーの育成を目的にする

「トヨタ・ドライバー育成プログラム」では、才能ある人材を発掘するとともに、継続的にステップアップできるプログラムを設定するなど、積極的な活動を推進しています。

### 富士スピードウェイ

2005年4月、あらゆるジャンルのモータースポーツ開催と各種イベントに利用できる次世代サーキットを目指し、富士スピードウェイがリニューアルオープンしました。トヨタが93.4%出資する富士スピードウェイ株式会社は、2002年9月から全面改装を実施しました。これに伴い、国際自動車連盟(FIA)の定めるサーキット評価基準の最高ランク「グレード1」を取得し、将来的にはF1レースの開催も可能なサーキットとなりました。メインストレートは世界最長の1,475mの設計となっているほか、舗装面は「グレード1」で指定された基準を上回る精度の平滑性を実現するなど、世界最新・最高のサーキットづくりを目指しました。



\* 詳細は、ホームページでご覧いただけます。

(トヨタのモータースポーツ活動) <http://www.toyota.co.jp/ms/>  
(F1) <http://www.toyota-f1.com/>